行 政 視 察 報 告 書

期　　日　　平成30年10月18日
視 察 先　　岩手県奥州市
調査事項　　第2次奥州市地域6次産業化ビジョンについて

奥州市は5市町村が合併し、平成18年2月20日に誕生。産業の状況は、稲作を中心とした複合型農業により県内屈指の農業地帯。目指すべき都市像は「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまちづくり」を進めている。

1、地域産業の現状について

市の産業別総生産をみると地域産業に占める農業の割合は３１．３％で市民の約３人に１人が農業に関わっており、農業は市の基幹産業で「農業」の元気が市の活力ある発展に寄与している。

2、地域6次産業化の目的

農業なくして奥州市の発展はないことから、基幹産業の農業を基軸に異業種産業との連携により、農林畜産物等の高付加価値化をはかり、新しい内発型ビジネスモデルの創出と地域農業の可能性を広げ、地域ぐるみの産業振興をはかっていく。

3、策定するに当たり検討した課題

(1) 奥州市地域6次産業化ビジョン　【基本方針】　～う米・きれい田・生きた稲！～

「うまい」　地域資源をより魅力的に
「きれいだ」　地域資源が育まれる環境を守り育てる
「行きたいね」　奥州市をより売り込み誘客する

(2) 食の黄金文化・奥州提案モデル事業補助金

・補助対象者 ―― 市内に本社または事業所を置く、法人・個人事業者または団体
・補助率 ―― 1／2以内、上限50万円
・開発された商品 ― 地元食材を使った弁当、米粉めん等
・試食、交流会 ―― 新商品を試食、補助対象者同士の交流

(3) 地域6次産業化　出前個別相談会　……　どうしたら売れる商品が作れるか。

う米（まい）の奥州食の黄金店認定事業《 市産米100%、市産食材50%使用の店舗 》
食の黄金文化・奥州料理コンクール　《 市産食材のアピールと若手料理人育成 》
優秀作品については市内ホテルが商品化。

(4) 奥州食の黄金文化祭「おやつフェスティバル」

市ゆかりの人名・地名を称する加工品を市内外に広く紹介し、市の知名度を高めていく。

4、取り組みによる成果（H26～28年）

実施しなければ市の現状を理解できなかった伝統作物調査や、事業に関る市民の意識を高め、集客効果が大きく奥州市をＰＲできた。

5、本市の認知度（今後の課題）

全国の地域ブランド調査（ブランド総合研究所）から見た本市の認知度は平成27年度が565位、28年度は604位と順位を落とした。

6、平成30年度の取り組み

目的に添った10項目の事業を更に推進し、市の魅力度平成29年度314位を300位以内にもっていけるよう、関係機関（商工会議所・物産販売店・ＪＡ・農家等）との連携を図り、新たなＰＲ方法を検討しすすめていく。

【質　疑】

①元気戦略室のスタッフは何名か。　……　関係機関と連携により8名

②地域6次産業出前個別相談会は。　……　市が旗振りをして、食のプロフェショナルにより行っている。

③水沢駅を奥州駅に変更する考えは。……　ＪＲと協議し相当額の費用が必要で考えられない。

④農業は国の基というが農業経営者の高齢化と後継者不足の中、将来の農業の行方はどうなるか。

(1) 北上川の東、当時は組合方式から法人経営に。
(2) 個々の農家単位で後継者を育成している。

○ 松本市ではわい化栽培による省力化で「ふじ」の栽培しているが奥州市は。……　主力はサンふじだが新品種に取組んでいる。　盛岡市場で、28年産サンふじ「1個48、000円」のご祝儀相場あり

⑤ 開発された商品「米粉めん」について松本市では米粉パンが人気だが。……　ソバ・うどんに一部古代米を使用している。個人がモデル的に開発したものはもあるが販売額は不明。

【所　感】

奥州市が元気になるための施策は何か！。基幹産業である農業を基調に、米の食味ランキング特Ａの「ひとめぼれ」・市が誇る「前沢牛」・国内最高級「江刺りんご」などの優良産地であるという理解の促進と、知名度向上による「奥州市ブランド」の創出への取り組みは素晴らしい。

松本市もこうした事例を参考に、松本の特産品の開発などに本腰を入れて、将来農業のあり方を考えて行く必要があるのではないか。